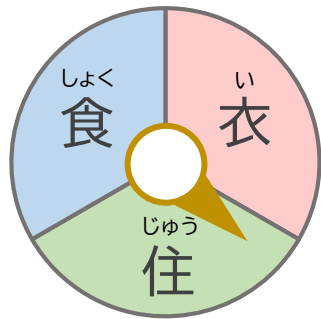




「あたたまる道具」

「冬をあたたかく過ごす工夫」



木や土などでつくられていてエアコンも無かった時代の家は、鉄筋コンクリートやガラスのある現代の家に比べてすきまが多く、冷たい空気が入りやすかったため、冬の寒さはとても厳しいものでした。ここでは、100年ほど前までに使われていた様々な暖房器具を紹介します。



300年以上前～
大正時代頃

行火【あんか】

炭の熱を利用して手足を温める道具。中の器に火のついた炭を入れ、上から布団をかけて使いました。まるい形がネコに似ていることから「ネコこたつ」などとも呼ばれました。



置きこたつ【おきこたつ】

炭の熱を利用して手足を温める道具。中の器に火のついた炭を入れ、上から布団をかけて使いました。使い方は行火と似ていますが、やけどをしにくいように、木の枠(やぐら)を組んで作られているのが特徴です。「やぐらこたつ」とも呼ばれます。



明治時代～昭和時代はじめ頃

足あがり【あしあがり】

火のついた炭を入れて、その熱で身体を温める道具。鉄でつくられています。足あがりと呼ばれることもあったようですが、ふたが付いているものは「足あがり」という名前で親しまれました。くらしが洋風化して椅子に座ることが多くなった頃、床に置いて足を温めるために使われました。



300年以上前～
大正時代頃

湯たんぽ【ゆたんぽ】

中に湯を入れて、その熱で身体を温める道具。寝る前に布団の中に入れて使われることが多かったようです。陶器や金属など、いろいろな素材でできたものがありました。室町時代に、中国から日本に伝わったと考えられています。電気もガスも使わないため、「エコ」な暖房器具として、近頃再び注目されています。

せん 栓



▲陶器製(焼物)の湯たんぽ



▲金属製の湯たんぽ



300年以上前～
昭和時代

チャレンジワーク

自分だけの「昔の図鑑」をつくろう！

()年()組

名前()



◆道具の名前 ()

◆使い方 ()の熱で手足を温める

はっけんメモ



◆道具の名前 ()

◆使い方 ()の熱で手足を温める

はっけんメモ



◆道具の名前 ()

◆使い方 炭の熱でおもに()を温める

はっけんメモ



◆道具の名前 ()

◆使い方 ()の熱で身体を温める

はっけんメモ

